京交山岳部報

No. 390　　'85　4月号

〔第１５３１回例会〕　**府県境の山シリーズ（６０－１）**

法沢山（643.5m）　※兵庫県境　（R）

日　　時　4月7日（日）　壬生交通局　ＡＭ7：00出発

コ　ー　ス　西京極－福知山－出石－奥小野…法沢山

担 当 者　高速　岡田茂久（ＴＥＬ　255－4305）

地図　1／2.5万　（出石）（須田）

備　　考　今年度から新しく〝京都府県境の山シリーズ〟として故郷の山々を巡る企画をたてます。京都府は兵庫県、大阪府、奈良県、三重県、滋賀県、福井県と境を接し、その府県境の総延長 420㎞に及び、そこには沢山の山々があります。そのすべてを登ることは大変ですので、まず三角点があり、1／2.5万図に山名が記載されているものを選んで月一回程度の例会を組む予定です。奥深い山は少なく比較的簡単に登れる山ばかりですが、シリーズ皆勤となると大変。乞う挑戦！

〔第１５３２回例会〕　**奥美濃**

釈　迦　嶺　（T）

日　　時　4月13日（土）～14日（日）　午後出発予定

コ　ー　ス　京都東インター　一今庄インター　瀬戸…高倉峠…ウソ越…釈迦嶺

担 当 者　九条　田中忠久（ＴＥＬ　691－0057）

備　　考　残雪の奥美濃へ福井県側から入ります。希望者は担当者まで申し出て下さい。（勤務の都合で日時を変更することがあります。）

今月の集会

4月　9日（火）　岳連ルーム

企画運営リーダー会

4月19日（金）　吉田宅

〔第１５３３回例会〕　ファミリーハイク

太　神　山　（R）

日　　時　4月14日（日）　京都駅　2番ホーム　9時集合

コ　ー　ス　京都ー石山ー里…太神山

担 当 者　本局　山元誠一（TEL　841−9318）

備　　考　しゃくなげを求めて湖南アルプスへ行きましょう。

〔第１５３４回例会〕

笈ヶ岳　スキー登山　（A）

日　　時　5月3日（祭）〜6日（祭）

コ　ー　ス　京都ー白鳥ー白川村ー大窪…三方岩岳…飆鞏山…仙人窟岳…笈ヶ岳

担 当 者　本局　大槻雅弘（TEL　841−9367）

備　　考　昨年計画しましたが、実行できなかったので再行するものです。

例会予告

猿ヶ馬場山

日　　時　5月11日（土）〜12日（日）　早朝マイカーにて出発

コ　ー　ス　京都ー白鳥ー平瀬ー木谷…猿ヶ馬場山

担 当 者　本局　三橋　勉（TEL　841−9365）

山声雪語

山の動物受難記

岡　田　茂　久

イノシシにとっては受難の季節だった。窓の外に小雪が舞えば名物ボタン鍋で雪見酒。「100g・2000円！みとおくれやす。勿論養殖とちゃいます。メスで油もようのって美味しいでっせ！丁度食べごろで最高ですわ。」お尻がこそばくなった山岳部諸嬢方御勘弁。これは改進亭での話。高雄錦水亭では一人前5000円。我々庶民にとってはちょっとした贅沢というものである。

だからといってこんなバカな行為をする人間もいる。「よっしゃ！　そしたらわしが捕ってきたる」とやってきたのが東六甲の「イノシシ村」。芦屋ロックガーデンの高座の滝周辺では、動物愛好家たちが数年前から野生のイノシシを餌付け、いまでは我々が差出す手から直接ビスケットを食べるほどに慣れており、親イノシシの後にくっつきウリンボが走りまわっているのはなんとも可愛いものである。

それをワナで捕獲し、鳥獣保護区域であったことから狩猟法違反で検挙された不心得者は、「ここのイノシシは人間に慣れているので捕まえやすく、ワナにわわって暴れるのを斧で叩き殺した。ボタン鍋にするつもりだった。」といっている。人間を信頼していたイノシシ達はまさかこんなとこ

ろでワナにかかるとは思ってもいなかったであろう。可哀想なことをしたものである。
たしかにこんなことをする人間は論外である。しかしこのような行為を招いた環境をつくったほうにも一端の責任はありはしないかと考えるのである。
近年あちこちで野生の動物たちを餌付けし、人に慣らしている話をよく聞く。サル・タヌキ・キツネ・小鳥達等々。私も人後に落ちぬ動物好きで、ムツゴロウの動物王国に憧れ、街で出合う犬たちには例外なく鼻つらをなでないまでも必ず挨拶をおくっている。まして自然の動物たちと交流できればどんなにすばらしいことかと思う。しかし餌でつって慣らして本当に動物たちと気持が通じあっているのであろうか。たしかに動物を慣らすには餌でつるしか方法はないであろう。動物たちにとっても餌の少ない冬などありがたいことである。中にはこれで命を救われた動物たちも数多い。しかしこの結果自然の動物本来の野生の姿が失われ各地の猿山等で餌をねだって人間に媚びをうる哀れなサル達の姿をみることになった。
自然界は厳しい。自分自身で生きる力のないものは淘汰されていく。しかし、人間はもともと動物たちの生活圏であった山野を人間の生活圏とするためどんどん開発し侵害した。そしてそのせめてもの罪滅ぼしと餌をあたえ、アフリカでは大規模な動物移動作戦等も展開されている。本来そこに生息すべき自然の摂理に反して強制的に移住させられ、餌をあたえられた動物たちは自分自身で生きていく力を失くし、その結果新しい環境に適合できず、ついには絶滅してしまうものもでてくることになる。
我々人間もまた自然界の一員であり、人間だけの地球ではない。人間にとっては喰うか喰われるかのおおげさな問題ではないが、動物たちにとっては死活問題である。カモシカによる植林の食害と保護の問題。やっかいな風土病タカノコックスの媒介犯人にされたキタキツネの駆除絶滅論等。人間と自然の動物たちとのテレトリー争いは熾烈である。しかしいつも勝利者は人間である。驕り亢ぶる人間はいつのときか、ＳＦの世界のようにひどいシッペ返しを彼らからくうのではないかと杞憂する。
餌付けをされいつか野性の心を失った動物たち、本当に彼らはそれで幸せなのだろうか、人間の自己満足に過ぎないのではないだろうか。六甲のイノシシ達も餌付けをされていなかったら、ワナにかかり斧で叩き殺されるはめにならなかったのではとも思うのである。

48歳　厳冬期の御岳を登る!!

古　市　昌　造

何度かの奥美濃の山行でいつかは登ろうと誓った御岳、３５周年記念事業の１０月の集中登山も大地震のため変更、待に待った私には「アコガレ」の山であった。５９年度 部の主テーマ「若い部員の育成」をも顧みず４８才の抵抗とばかりに、北鎌尾根より槍ケ岳への若いリーダーに助けて

いただいての感激多い満天の星空でのビバークによる「夏山合宿」。今回老パーティーによる体力限界を感じた（精神年令　若さイッパイ）「冬山合宿」？

行はヨイヨイ、名神・中央・１９号ルートのドライブも御岳に近づくにつれて、今回の地震の恐ろしさ被害の大きさ、テレビ・新聞の報道よりも大きく感じたが、さすがは王滝村の努力で復興も早く国設御岳スキー場の設備の良さにはオドロキの感じであった。

京都を早朝5時出発、１１時過ぎに八海山5合目に車をデポ、本日のテント地田ノ原6合目を目ざし最新装備の老パーティー国設御岳スキー場の最新設備のリフトを利用すべく荷物に工夫をこらしたが利用出来ず精神的にも体力的にも落胆の様子だが、気分を引きしめ伊吹山トレーニングの成果を出すべく登りだす。ゲレンデをスキーヤーがウエデルン？で滑るのを横目で見ながら田ノ原へと登るのだが、さすがに老体個々に昔の古傷が出、アリの行列にならず三笠山直下２２００ｍ附近ゲレンデ横でのテント泊となる。

前日の晴天もどこえやら、強風・小雪もちらつき悪コンディション、最新装備の不なれも有り出発直前のアクシデントだがさすがに老兵すばやく修理、田ノ原へと急ぐ途中大キジ・小キジと何本か立て森林地帯を過ぎ7合目まで新雪をスキーで登り小休止。スキーをデポしアイゼンにはきかえ京交名物直登コースを取り、8合・9合目の石室・ハエ松・岩膚の出た稜線下を鼻をつくイオウのにおい、ガスと地吹雪でパーティ行動もみだれがちに登る。王滝頂上直下の突風で４～５ｍ飛ばされこれが厳冬期の３０００ｍの冬山かと「ヒヤリ」とする。

王滝頂上神社はうすいイオウの色のエビのシッポが全面おおい異様な世界に引きづり込まれた様だ。一等三角点剣ケ峰はガスとブリザードのため御安全登山の山岳部の規定のため断念、登頂恒例の万才もそこそこに下山す。

行はヨイヨイ帰りは恐いの歌の様に当日は日曜日で、八海山出発１９号線へ出るまでのスキー屋の車で3時間近くついやし、帰京は翌朝2時過ぎとなる。

合　宿　に　思　う　！

大　倉　寛治郎

木曽御岳冬山合宿にむけて、各種のトレーニングや例会を取り組み若い部員の参加を求めてきたが、勤務やその他の都合で参加がなかったのは寂しかった。が、平均年令４６才強という若さあふれる我々５名で合宿を行う事になった。今回は全員ツアースキーが出来るということで、登山のスピードアップを計る為スキーを使用することにした。

8合目の猪鼻の所までスキーで登り鼻の所にスキーをデポし、アイゼンを着け頂上を目指す。歩きはじめて気がついた事だが、兼用靴での歩行は足首が曲らず苦労する。9合目ごろから登るにつれ吹き荒れるブリザードの中を合い間に見えかくれする王滝頂上をめざして進む。（２，９３６ｍ）鼻に着く。吹き荒れる中での行動は無理で、王滝頂上より来た路を下山、デポ地へ着く。ここからテント地までスキーで滑るのは爽快である。一日スキーを楽しんだ方山さんと合流し帰路につく。

食糧計画は２３日の夜までの主食と行動食は各人持参とし、共同購入は２３日夜と２４日の朝食・昼を用意する。共同装備については、必要最少限にとめた。個人の装備においても極力おさえたが、パッキングをしてみるとかなり大きな量・重さになった。

結果的には御岳頂上（３０６３ｍ）には登れなかったが、２９３６ｍの王滝頂上まで吹き荒れる中を中年のがんばりで登れたことは、いろんな意味で意義のあることだった。

反省として

1. 兼用靴の使用で大変苦労した。
1. スキーでの下山時、指示の不徹底で途中で待たせてしまう事になった。
1. 衣服（保温）、用具等装備の軽量化に検討を加えたい。

このほかにもまだまだあると思うが、今回の体験をもとに今後の活動の中で生かしていきたい。

〔参加者〕　岡田茂久、武田喜久郎、古市昌造、吉田　武、大倉寛治郎
スキー参加　方山宗子

〔コースタイム〕

２３日　九条車庫 5:30 ―名神ＩＣ 6:10 ―養老ＳＡ 7:15 ―中津川ＩＣ 8:30 ―御岳料金所 10:54 ―八海駐車場 11:20 ～ 13:15 ―テント地（２０７０ｍ）14:15

２４日　起床 4:55　出発 6:50 …田の原 ２１８０ｍ 7:33 … 7 合目 8:25 …谷の上部 8:57 ～ 9:10 猪（スキーデポ）9:35 ～ 9:55 … 8 合目 10:10 … 9 合目 11:35 …王滝頂上 12:10 ～ 12:20 …猪 13:25 ～ 13:45 …田の原 15:10 …テント地 15:30 ～ 16:00 …駐車場 16:20 ～ 16:55 ―国道１９号 19:05 ―中津川ＩＣ 21:20 ―彦根ＩＣ 23:20

２５日　草津 1:05 ～ 1:40

九州離島の山旅

坂　井　久　光

２／１　先月九州本島の一等△（５００以上）は一応完登したので、残りの離島の分１１座を少しは片付けようとして放浪の山旅に出た。大阪南港から日本高速フェリーで鹿児島へ。２／２夕刻上陸してバスで西鹿児島へ行き、国鉄で湯の元へ。遠見旅館で一泊。２／３午前中に芹野へ行き冠山へ登った。川内や串木野辺で有名な霊峰で、昔秦の除福が始皇帝の命で不老不死の霊薬を求めて渡来し冠を捧げたのが名の起りとの伝説がある。

車道を登り山村を通って山道との分岐に出て本峰を望む。植林の中の小道は荒れてはっきりしない所があったが道筋を辿って一旦車道に出て天狗岩経由急坂を登りつめてお社の建つ山頂へ。二等△５１６ｍが鳥居の下にあった。展望は良いが、黄砂の為か霞んで遠望がよくない。下山は途中から右へ下り百次町へ出て川永野バス停からバスで串木野港へ。

冬期で船便が一便で高速艇もドック入でないので甑島への渡航も難しい。夕刻長浜港に着き敷島旅館で一泊。　2／4　5：30にタクシーが来てくれ、自衛隊近くの登山口へ。夜明が遅く真暗で懐中電灯片手の登山。九州自然歩道の一部1，650mは簡単でなく良い道だがコブを二つ程越え上り下りがあり山頂に着いたが、暗く日の出が待遠しかったが曇か仲々明るくならない。三角点は樹林中にあり昼でも展望は望めない。植生は常緑広葉樹で、カシ・シイ・クス・タブ・ヤツデ・モム・シャリンバイが主であった。登山口迄下るとやっと明るくなった。

バスは手打行があったが長浜経由かどうか判らずひたすら下った。途中でバスが追抜き長浜経由なのが判ったが、止ってくれなかった。朝の出帆前に間に合い船で串木野へ。バスで駅に行き鹿児島へ。十島村迄船が21時出帆なのでその間に熊本の奥野さんが吉野ゴルフ場の272△が一等だったとの葉書がきたのでその確認に市バス牛牧行に乗りゴルフ場へ。

地図を頼りに探したが杭も見当らず事務所に行き聞いたら車で案内してくれ、探した附近の小丘上で杭はなく石は小さく埋っていたが二等か三等で一等でない事は確認出来た。市バスで旭通へ帰り夕食をとって十島村役場へ行き船の情況を聞いて出帆時間迄時間をつぶしに市内をぶらついた。

21：00発第三十島丸に乗りトカラ列島最大の島の中之島へ向った。2／5　8：00上陸、民宿日高で朝食後最高峰御岳△978mへ向った。御岳林道を辿って登っていると道路工事の車が来て終点近くの現場へ運んでくれて大助り。

テレビ塔の建つ林道終点へ行き踏跡程度の草の茂みを分けて登り尾根に出た。火山らしく熔岩の露岩や草原状でガスで前方が見通せずピークを越えてやっと最高点を確め一等△標石（新しい花崗岩）を見付けたが展望0。少時休憩して下山するとガスの中に無線塔が見えたのでその方へ向って下山。そこからはっきりした細道が下りていた。女竹の林をかきわけて急坂を下るとテレビ塔の下方のカーブ地点へ飛出た。すぐ近くが工事現場で道路の舗装工事中で、もうすぐ昼休みで下山するので乗って行けとの工事の人の好意で民宿へ。昼食後早速温泉へ入りに行った。西温泉は熱く水を入れてかき混ぜてやっと入浴。御岳の雄大な景色を見たり、入浴していると浮世の苦労は忘れるようである。入浴後散歩乍ら東温泉へ行き又入浴。民宿の近くにビロウ椰子やバナナ・スダシイ・ガジュマルの林を見ると腰蓑の土人が出て来そうな幻想にかられた。

民家は防風林にハマサカキを植え、クワズ芋や水芋が生え、ハイビスカスが真赤な花を咲かせ、ブーゲンベリヤや菊・カンナ・エンドウが花を咲かせており枯草を見ないと冬と思えぬ光景であった。又お宮の大木はロウソクの木と云い白い花が咲く大木で昔丸太舟を作ったとか。山地は女竹の群叢が多く常緑樹林であった。入浴後民宿主人の弟の村役場の支所長の車で旧噴火口の牧場や開拓村の日の出部落（高尾）へ行ったり散歩して過した。

翌日は朝から雨で渡船で知合ったＮＨＫ．ＴＶの大井君と口の島の民宿へ電話したりした。彼等は暫く口の島の自然や民習を撮るそうだ。来いと云われたが浪が高く渡船は出ない。予定の乏割岳は割愛して今度の楽しみとして翌日の汽船で鹿児島へ帰り一泊して徳の島へ向った。大島汽船で、5，000下級である。少しゆれたが翌朝亀得港に着き山（サン）部落の青年と知合い、井の川岳山麓の池間公園へ。砂糖キビ畑の車道を登り雨中を傘で登る。林道終点から1．8Kmの標識あり、急坂

を登って尾根に出たが、緩い登り下りが続きとても1.8Kmとは思えぬ645mの一等△へ漸く辿着いたが、展望は0であったが広い山頂で塵が多かった。毎年正月に島村が登る信仰の山とか。小雨で登る迄に晴れると思ったが止やず途中で池間への道を下山。中腹以下の山道で小蛇（ウス赤紫色）を見て吃驚。今日の雨は春一番とかだが冬眠から覚めたのか、ハブの子かも知れず可愛らしかったが涵まず要心して溝状に掘れた小道（昔水が木材を下ろしたので出来た）を一目散に下山。天城岳は割愛（道が厳と聞いた）してその日の（2／5）の夜船で大島の名瀬へ行き近くの安宿で一泊

2／10　同宿の釣人の車で西仲間迄乗せて頂き、タクシーをヒッチして新村へ。こゝから湯湾へ向けて歩いていると湯湾岳へ登りに来た2組の夫婦の車に拾われ駐車場へ。全く好運でこんな事がなかったら早く登れず夕刻の船に間に合ったか疑問である。

2Km約40分のよい道を歩きお社へ。こゝに大島大酋長の石碑が立ち、やゝ南洋に来た感が深く、少年時代の愛読書の少年クラブの冒険ダン吉を回想した。全く朗らかな夫婦達で名瀬の郵便局の職員とか。山頂の三角点は破損がひどく何処か定かでない。周囲は樹林だが間より展望が得られるが全く信州のようで山並みが垣の様に続き、遠くに海や入江が望める。近くに薬草アマチャズルが生えていた。お社で昼食を食べたが、私のパンを見てお握りやら漬物やらパパイヤを御馳走になった駐車場へ戻り展望台へ登って憩った。眼下に焼内湾や山脈、大島海峡と360°の展望。附近に樹木に名札があり、ノボタン、タイミンタチバナ、ションベンの木（ミツバウツギ科）、ボケヨウジー（アカネ科）、ヘゴ、カンコノキ、タブ、ヤマビワ、サクラツツジ等があった。往路車で名瀬港へ神戸行汽船は12日迄なし。仕方なく鹿児島へ照国汽船クインフーラル号で鹿児島へ。2／11新日本高速汽船の神戸行が欠航とのことで仕方なく汽車で日向へ行き、友人の岩坪氏を訪れ久しぶりの出合いを楽しみ夕刻神戸行日本フェリーで神戸港に上陸、2／12無事帰京した。

〔コースタイム〕

2／1　14:54 四大－15:32～15:41 梅田－15:49～15:53 大国町 16:00～16:06 住ノ江公園－16:13～16:30 フェリーターミナル－16:37～18:00 カモメ阜頭

2／2　14:00 鹿児島谷山港着－16:43～17:36 西鹿児島－18:07 湯の元 遠見旅館（泊）

2／3　7:35 湯の元　バス－8:00 芹ケ野－8:30 分岐 2.9Km… 8:40 2.4Km… 9:25 1.1Km… 9:40 登山口… 9:55～10:05 冠岳 2△… 10:15 登山口… 10:25 1.1Km… 10:50 廃村… 11:05 百次コース… 11:34～11:42 川永野… 12:05～13:05 串木野港－16:45～17:00 長浜港－敷島旅館（泊）

2／4　5:30 出発－5:55 登山口… 6:25～6:30 尾の岳… 6:55 登山口… 7:13 長浜 5Km… 8:07～8:20 長浜港… 12:00～12:07 串木野港… 12:15～12:20 串木野駅－13:03～13:48 西鹿児島 14:29～16:00 ゴルフ場（272△）－16:35 旭通－19:25～21:00 名山桟橋

2／5　7:00～7:25 中の島－9:10 出－9:22 林道分岐… 9:31 一周道分岐… 10:00 林道現場 10:05 テレビ塔… 10:50～11:00 御岳△… 11:30～11:50 現場－12:05 民宿

2／7　8:45 出港－17:30 名山桟橋－18:00 名山荘（泊）

2／8　8:30 出－9:00 名山－17:50 新港第2阜頭

2／9　11:05 亀得港－11:30 池間公園…12:00 林道終点…12:35 展望台…13:20～13:30 井ノ川岳△…14:53～15:27 母間…15:55～17:40 亀得港－21:35 名瀬港（泊）

2／10　8:05 出発－9:17～9:27 西仲間－9:45 新村－10:35 駐車場…12:00～12:50 お社…13:10～13:30 駐車場展望台…14:00～14:10 宇検村役場…18:00～22:00 名瀬港

2／11　9:30 新港－10:30～11:11 西鹿児島－14:00～15:00 南宮崎－17:50～21:00 日向

2／12　11:00 新神戸港－11:15 国鉄芦屋－11:32～11:40 阪急芦屋－12:00～12:18 十三－12:55 四大

第１５２３回例会

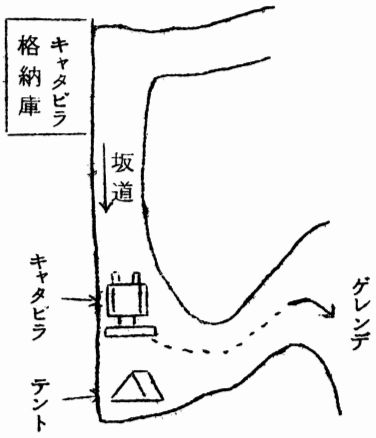
大日ヶ岳～天狗山ツアー

△1708　　△1658

大　槻　貞　従

日　時　1958.2.10～11　　場　所　岐阜県高鷲村

2月10日（日）曇　　AM7:30 九条車庫出発、一路岐阜へ向った。岐阜羽島ＩＣを降り二つ目の信号を左折し、長良川に掛る赤い鉄橋を渡ったら直ぐ右折し、そのまゝいつも通る長良川右岸道路を一路北上した。金華山を右に見ながら郡上八幡市の新美濃橋を渡り国道１６２号線に出た。この堤防道路は便利で早い。途中白鳥町でホルモンと野菜を購入し、蛭ガ野に向った。初日はごった返した。蛭ガ野スキー場で適当に足ならしを終り、午后3時頃には大日スキー場へ向った。翌日出発地点に出来るだけ近くテントを張るべくスキー場内を物色し、ころあいの場所で張り夕食をはじめた。ＰＭ5時頃ハプニングが起った。日暮れ近くなった頃、突然雪上車が爆音あげてバックしながらテントの間近まで突進してくるではないか。私は一瞬、これはまずい。この場所はキャタピラがＵターンする指定地だったのではないかという想念がかけめぐった時には『あぶない!!』と大声あげてテントの中で逃げ腰になった。テントの１～２m 手前で止って方向を変え前進していったので踏みつぶされずに助かった。『今の運転手は気がついてないで』といっていたら、又2台目が、「ゴー、ガタガタ」と一日の仕事を終えて帰って来るではないか。これは、えらいことになったで、悪い場所にテント張ったもんや。とにかく我々の存在を知らせるためにランプを踏切りの警手よろしく、ゆらりゆらりと合図することにした。やれやれ通り過ぎたと思って飯を食おうとしたら、又3台目が「ゴー



ガタガタ」とやって来る。「はよ、合図せなあかん」キャタピラのライトに照らされて、テントの中は昼間のように明るくなる。皆んな心配顔でシーンとなる。4～5台続いてやっと来なくなったので胸なでおろして、眠りについた。小雪がちらついてはいるが、荒れそうにはない。うとうとした12時頃、又、又、爆音が始まった。今度は格納庫からゲレンデへ向っていくではないか。夜の夜中にゲレンデの整備に行くらしい。もう寝られたものではなかった。

2月11日　曇　　朝7時頃、スキー場従業員のオバチャン達がめずらしいと見えて、一度テントの中を見せてくれと寄ってきた。「寒ないのやろか、狭いのにどないして寝てるんやろか、何食べてるんやろか、うちの娘も見せてもろときなさい。」とワイワイガヤガヤ。屈強なる山男達は、自慢げに一通り説明する。色んなハプニングがあった後でテントをたたみ、大日岳目指してリフトに乗った。幸い今日も曇がちではあるが、見通しはよく、快適にシールをすべらせて一ぷく峠まで高度を上げていった。一面真白な世界が広がっている。目ざす大日の丸い前衛峰が近づいて来る。

6:00起床…8:00テント撤収…8:40リフト終点…8:48シールで出発…9:12一ぷく峠…大日岳山頂10:15…小雪 出発10:25…天狗山11:17～11:35出発…大日岳12:16～12:20下山…車止13:10…14:00車出発

約一時間半でなんなく登頂。四囲の山には雲がかゝって姿を見せてくれないのが残念だが、北方面天狗山ははっきり白い尖峰を見せている。我々3人はそこまで往復することにした。それは、前人未踏の地に踏み込んでいくような緊張した感動がこみ上げてくる。シールをつけたまゝ小さなアップダウンを繰り返すスリルと面白さがなんとも言えない。縦走路の東側に大きく張り出した雪庇が神秘な造形の美をもって真近かにせまって来る。雪庇を避けてやゝ内側寄りに一直線に滑降する。無地の雪原に一本、二本、三本とシュプールが残っていく。振り返ってそのシュプールが遠くかすんで小雪の中に消えていく様は、山並みが続く限りどこまでも行ける勇気を沸き起してくれる。時間が許すならもっともっと遠く、いける所まで行きたい誘惑にかられる。いつの日か、石徹白周遊コース（大日岳1709m…天狗山1658m…芦倉山1716m…丸山1786m…（小屋）…銚子ケ峰1810m…願教寺山1691m…よも太郎山1581m…薙刀山1647m…野伏ケ岳1674m…和田山牧場へ）を周り切りだ．男のロマンだ。

下りは、スキー場めがけて樹林の間を快適な滑降が出来た。山荘のテラスで一ぷくした時の気分は最高である。停滞する帰路は白鳥町附近から、長良川の対岸へ渡り、地元の車に従って走ったおかげでずいぶん早く市内を抜けられた。

〔参加者〕　大槻雅、広瀬、吉田、大槻貞　　4名　　車1台

◎ 日山協の山岳保険加入について

60年度第一期分（4月～3月）として下記の部員が加入されましたので報告します。

（烏丸）　片岡秀明、台川敦美、大倉寛治郎

（OB）　津田　実　　（九条）　大槻貞従　　（本局）　三橋　勉

比良　堂満岳

津田　実

2月3日　村氏と共に金糞峠から堂満岳を目指し正面谷を歩く。スキー場便りでは積雪150mとあったが谷筋はさほどでもない。然し、正面小屋付近は雪が凍てついて歩きづらい。小さな子達がスノーボートで遊んでいた。此処なら金もいらず安全で我々の族の天下だ。炎天下を、或いは寒風のなかを江若鉄道比良駅から大山口の岐れ迄歩いて来るとヤレヤレと一服したものだ。今日も此処で一本立てる。気温プラス4度、なま暖い。

堂満岳の真下あたり、以前は左岸にあった小径がいつの頃からか砂防堰堤の作られるに従って右岸に変り、小径が林道となって青ガレ迄続く。ガレの手前で他のパーティがアイゼンを付けていて通れないので腰おろす。青ガレは雪に被われて一筋の踏跡があるのみ、流石比良の銀座コース、カラフルな服装の人達が通って行く。ルンペンプロは我々2人のみ、若人の好奇なひとみが恥かしい

今日はトレーニング不足か、年令か、此処迄来るのに大汗をかいた。頑張って峠迄もう少し、やっとのことで金糞峠にたどり着く。天気は好いのだがガスの為景色は今少し。堂満岳へはよく登り金糞峠から頂上迄の径も何回も登降しているが、此の径が東洋レイヨン山岳部の方々の非常な努力のおかげで作られた径とは知らなかった。ノタノホリから山頂迄、いわゆる堂満東稜道を東レ新道と聞いていたが、それは滋賀県山岳連盟の方々が炭焼き道を利用して開かれたとのこと。滋賀岳連と東レ山岳部の方々に改めてお礼をのべるとともに、我が不明をお詫びします。

その東レ新道は我々の少し前に2人進んでいったのみ、今日は誰も通っていないらしい。今迄の径は大勢の人が通って楽だったが、此れからは大変だ。膝を没する湿った雪がアイゼンに付いて高下駄を履いたような状態になり、おまけに時々頭上の枝から雪塊の洗礼を受ける。これも「今日は節分やさかい、吉田はんに古いお札を納めて来てんか」と云うオバハンの声を聞き流して山へ来た吉田はんか、オバハンの祟りやろか。　閑話休題。

なんとか去る年に岳友が傷ついた恨みのルンゼの頭上に着く。今年は積雪の少ないせいか人の姿はない。それでもうら若い女性が1人勇ましいスタイルで立っていた。「登って来たのですか」と聞くと、人を待っているとのこと。

堂満頂上の少し手前の粗林のなかに風の当らない所があるのを思い出し、お弁当を喰べようと話し乍らその場所に行くと、先客がどくろを捲いていたので仕方なく頂上へ行く。頂上で東稜かから上って来た人とばったり逢い、「津田さんですね、相変らずお元気ですね」と話し掛けられた。色色未知のルートを教えて戴き写真をとって貰って別れたが、烏丸の方と伺ったがお名前を聞かせてもらえなかった。（後日、増田さんと判ったが）　以前、南比良峠で食事をしているときも見知らぬ登山者に声を掛けて戴いたが、そのときも「北山でお逢いしました」とのことだったが、小生は

覚えはないが先様は知っていられるらしい。これも長い山歩きのせいらしい。有難いことだ。 合掌

昼食のあと、東稜を比良駅へと下降するが此の径も何回も通っているので足どりは軽い。途中で幾組ものパーティーに逢う。重装備組やら、軽いのやら、重装備組はマナーも心得礼儀正しいが、これで冬山を歩くのかと疑いたくなるような人達も元気好く登って行く。皆様、ご安全に。

やがて行手が開けて来るころ、小川に出る以前は川の左岸を正面谷橋へ出るよく踏まれた径があったが、去年の夏通ったところ自然に還っていて通行不能だった。今日は2人では雪も少なく歩行は無理と右岸へノタリホリ径をとる。好く晴れた日なら景色の好い小径なのだが、今日はどうにもならぬ。黙々と歩く。軈て、ノタリホリ手前に南比良峠と書いた指導標のところに出る。これからは暗い谷筋なので右手の明るい方へ径をとる。

急な斜面を斜めに少し行くと、南比良の集落から南比良峠に通じる林道に出た。オーバ、ズボンスパッツ、アイゼンを外し、ルンルン気分で比良駅へ急ぐ。15時35分ごろの電車には乗れないので駅でゆっくりしていると、16時10分ごろに快速があるとのこと、急いでそれに乗り、17時30分に家に着いた。

昨年の秋から山に遠のいていたせいか、登りが非常に苦しかった。体調をととのえ、今年は南アルプスを登ろうと思っています。

雪の北山おすすめコース

（花背峠～滝谷山～百井～天ヶ岳～大原）

山　元　誠　一

市街地にも朝から白いものが「チラチラ」舞い落ちた2月の24日。本日の目的地北山は勿論雪雲の中、早朝のバス（広河原行）を待つ間も、「こんな寒い日にわざわざ山登りに行くより、2人してコタツに入って寝ていた方が良かったかなあ。」等と不将な事を考えていましたが、いざ、雪の山中に入るとその美しい景色に感激し、気分はルンルン。これが雪山の持つ魅力なんですね。

降り続いていた雪も少し小降りとなったものの、我々がバスを降りた花背峠の積雪は根雪と合せて30cm余り。寒さが厳しかったのでダブルヤッケにロングスパッツ着用と完全装備で出発する。バス停から少し下った所から杉峠を目指し、新雪を踏みしめ林道をテクテク。我々と一緒に下車した10人余りの人達が先行しているらしく足跡が続いている。杉峠は、杉の木の根元にお地蔵さんが、また少し離れた所には市街地からも良く見えるアンテナがある所で、本来ならば比良山系は勿論、琵琶湖も見えるそうであるが、本日は雪の為に見えずじまい。

雪が再び激しく降る中、大見尾根を滝谷山を目指して歩く。おとぎの国にでも出てきそうな小さな山小屋（チロル小屋）の横を通り過ぎ、花背の里を眼下に見下ろしながら進むと滝谷山と書かれた標識の所に到着。先行していた10名余りの人達が登っているらしく上の方から声がする。急な斜面の登りなので滑らない様に慎重に登ると5分程で、滝谷山頂上（876m）に出る。我々が着い

たのとほぼ同じ頃、上空には一瞬晴れ間が広がり、樹々に積った雪が輝いて目に眩しいぐらいであった。しかし、北東の比良方面は相変らず雲の中。記念写真を撮って、再び大見尾根に出て昼食地百井に向うため、もときた林道を戻る事にする。

百井キャンプ場への道は、チロル小屋と杉峠の間にあって、ちゃんと道標もあった。下り初めは急だった道も、少し行くと緩斜面になり歩きやすくなる。しかし、沢筋の道という事もあって雪も少し深くなり足首まで雪にもぐる。再び降り初めた雪の中を少し急ぎ足で進む。

大見尾根から３０分余り下った頃、百井キャンプ場に到着。本日の昼食メニューは「ホットドッグ」と「ポタージュスープ」そして「焼オニギリ」。　冬はやはり暖かいものが最高ですね。

こゝ百井のキャンプ場は施設も良く整備されており、昼食地としては勿論春や夏などにキャンプにこられてもいいのでは。昼食を撮っている間も雪は間断なく降り続き、どんどん積る。昼食の跡片付けをし、天ケ岳へ向うべく出発。雪の積った車道を滑らない様注意して百井峠へ。２０分程行った所に、「天ケ岳を経て大原へ」と書かれた道標があったので、それに導かれて進む事にする。

その道は、しばらく山の東面の見晴しの良い所についており、晴れていれば展望コースであるのに、本日は吹雪で天ガ森が見えるのみ。ラッセルされた道を額にうっすらと汗をにじませて登る事になる。

雪の中、尾根の東面についた巻き道を登る事２０分、「天ケ岳へ０．５km」と書かれた標識の所に到着。その辺りの積雪は約３０cm。頂上から戻ってくる家族連れに出会う。「コンニチワ」とかわいい声。１０分余りで天ケ岳山頂に着く。相変わらず雪が降り続く中、大勢の人達が昼食を摂っている。三角点はなかったが、頂上を示す立派な標識があったのでそこで写真を撮り、小休止する。しかし、じっとしていると寒いので早々に退散する事にし、もときた道を戻り、大原を目指す。その道もラッセルされていてラクラクと思っていたら、突然、急な下りが現われ、そこは雪が少なく滑るのに絶好の所（？？）で、慎重に下る。そこを抜け出て「ホッ」としたのも束の間、今度は道が狭くなり右側が絶壁（チョットオーバー）になっている所等もあって少しスリルも味わえました。岩屋谷出合、焼杉山からの尾根道との出合を経て、岩のゴロゴロした道を下る。その頃ようやく、雪も止んだ様である。さすがにこのあたりまでくると、雪も少なく数cm程度。やがて林道にでて、そこからはルンルンと思いきや、凍てついた橋の上で「スッテンコロリン」。最後迄気を抜いてはだめだという事を身をもって知りました。（ハイ！）

冬の大原を訪れる観光客を横目でみながら、我々はバス停に向う。こゝに書いたコースは、身近に雪山を楽しむには最良のルートと思われますので、来冬には是非一度、家族ずれで出掛けて下さい。喜ばれる事請け合いますヨ。

〔コースタイム〕

三条京阪 7:17 ―花背峠 8:50 ～ 9:10… 10:10 滝谷山△876m　10:20… 10:50 ～ 11:00
チロル小屋…百井キャンプ村（昼食）11:50 ～ 13:15 …天ケ岳 14:00 ～ 14:15…岩屋谷出合
15:30 ～ 15:45… 16:55 大原バス停 17:10 ― 17:50 三条京阪

銀嶺の武奈ヶ岳

荒　田　又之助

1月20日　京都歯科医師会の先生方（山岳同好会3人）に連れてもらって雪の比良に登る。当山岳部に比べ平均年齢が大分低いが、なんとかついて行けた。

小雨まじりの暗い朝湖西線比良駅からバスでイン谷口に向う。例年に比べ雪は少ないようである。午前9時、正面谷沿いに青ガレ取付きに向かう事約1時間、1年ぶりにアイゼンを装着する。ここから金糞峠までは一面雪の急斜面である。峠からヤクモ原まではうって変わって平担な雪原の中を道が続く。正午前に雪を踏み固めその上で昼食をする。この頃になるとすっかり青空が広がり、視界の中は白と青だけの世界が広がる。心地良い冷気の中で熱いカップ大関を飲む。手近に味わえる正に別天地である。昼食後、色とりどりのウェアーで賑わう比良スキー場を横ぎり尾根道を登り始める。緩慢な登りだが足が重い。1時間も行くと突然眼前に武奈ケ岳の勇姿がとび込む。もう少しと言いきかせる。頂上直下は急坂で歯をくいしばり登る。2時過ぎに比良連峰最高峰武奈ケ岳（1，024m）に登頂する。青空もすっかり消え去り吹雪である。記念撮影後、早々に下山する。北比良峠より、ダケ道を下り大山口でアイゼン、スパッツ、ピッケルを洗いザックにしまい、今日の山行を終了する。下界では又、小雨が降っていた。

五里五里の里を歩く

田　中　定　勝

2月24日（日）　曇

室町時代に入ると城陽の街は京都へ五里、奈良へ五里として宿場町の色を濃くしてきました。人人が歩くことから交通機関を利用するまで私たちの街がたどってきた道とは…　現在城陽の街には七本の道標が残っています。すり減って字の読めないものもありますが、いずれも京都・奈良方面への街道の目印として長い間旅人たちを案内してきた〝道しるべ〟です。

コース　山城青谷駅…梨間の道標…市辺の道標…加茂神社…深広寺…十六の道標…西生寺…青谷梅林ー二本松の道標…中天満宮…観音堂旧陸軍長池演習場の道標…且椋（あさくら）神社…大蓮寺…菱屋旅館…長池の道標…長池駅

加茂神社は京都上、下神社の末社です。

深　広　寺　天正17（1509）広誉上人無公大和尚が地域住民の帰依により創建された本尊

阿弥陀如来、大日如来、十一面観音菩薩をお祀りしてある。

西生寺　洞谷山と号する浄土宗の寺で知恩院に属する。寺伝によれば、室町末期の天文13年（1544）頃緑誉称念が村民の帰依によって創建したとつたえ、元禄6年（1693）知恩院の末寺となり、明治7年（1874）了性寺（真言宗）を吸収合併したとつたえられる。本堂には本尊阿弥陀三尊を安置し、他に庫裡や薬医門などがある。

青谷梅林　昭和47年10月、市制施行を記念し制定、南部丘陵地に広がる青谷の梅林は春になると一面に漂うかぐわしい香りがわたしたちの心をなごませてくれます。花見客は多くなり、近畿の名勝地となった。

〝青谷の梅咲きたりと　ここかしこ　人まち顔に　鶯の鳴く〟

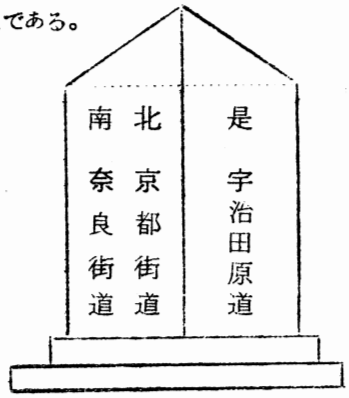
中天満宮　菅原道真を祭神とする旧中村の産土神で、その創祀年代および由緒沿革はあきらかでない

冑（かぶと）神社　といは正しくば且椋（あさくら）神社という。高倉宮以仁王と神功皇后を祭神とする。口碑によれば、当社は宇治川の合戦に敗れて光明山の鳥居本にて流れ矢にあたって戦死をされた以仁王の冑を祀ったのが起りとつたえる。

大蓮寺　甘諸翁利兵衛墓、翁は長池の人、故あって琉球鬼界ケ島に流罪されたが、享保元年（1716）赦免され帰国にあたって、ひそかにさつま芋をもちかえりこの地に試植したとつたえる。これが寺田芋の元祖である。

菱屋旅館　長池の宿場町として栄えた。今では当時の面影を残して一軒だけになっています。

長池駅　明治27年には国鉄奈良線が開通し、城陽で唯一つの駅として宿は相変わらず賑やかであったそうです。
城陽へ移転して今年で丁度15年になります。始めて歩いて知ったわけです。



津田山～伊崎山

3月3日（日）　曇

京都駅8時33分発米原行乗車、近江八幡下車してバスにて長命寺へ。

コース　長命寺…津田山…近江八幡休暇村…伊崎山…伊崎寺…宮ケ浜…近江八幡…京都駅

長命寺に着きそのまゝ八百八段の石段を登りひと汗かいた。在職中に西国の朱印掛軸をしたときにお詣りして以来です。鐘楼の横道から自然休養林の山道に入る津田山山頂に近づくと眼下が急に拓けて、紺碧のびわ湖対岸にくり広げる比良連峰の大パノラマ、大きな岩の上から眺める「比良の暮雪」はびわ湖八景の一つとあって全く素晴しい限りです。津田山頂上にはしめ縄の張った石があって御神体として祀ってあります。こゝから少し下ると三角点があり下り続きで廻りくねって、や

がて湖岸線が見えてくると車道も間近か車道に出て約500m程行くと近江八幡休暇村に着き昼食とする。出発1時20分車道を歩いて伊崎山に入る。このあたりへ来ると強風がふいてなかなか歩けなかった。樹齢300年程する木が台風で倒れたのか、何んで倒れたかわからないが、随分倒れていた。湖につき出た伊崎寺不動堂の飛び込み台を見て宮ケ浜を少し歩いて帰路につく。

長　命　寺　　西国三十三ヶ所第31番札所で、808段の長い石段を登りつめると、本堂、護摩堂、三重塔、三仏堂、鐘楼など、重要文化財の諸堂が立ち並んでいます。景行天皇20年、武内宿弥が山で長寿を祈り聖徳太子が堂宇を創建したと伝えられています。

伊　崎　寺　　当寺は聖徳太子の分地、役小角行者（日本山岳仏教修験道の元祖）の草創とあり（役行者巡錫の途中、金光湖岸の空中に現ず、行者その光を目標にたどりつき給ふに、一匹の猪が現じ篠を分ちて行者を島の崎に案内す。依って猪崎寺と号す言々）（伊崎寺蔵、伊崎寺縁起）又（仏教教理よりすれば、寺現存の地形が北東、西の三方絶壁になりたるは金剛界を表じ、境内の平地は胎蔵界を表じ、これ世の伊宇の三点の如く重要にして且つ、霊地としての相がそのまゝそなわっていると言うなり、こゝより伊崎寺と号すなり）（当時所蔵縁起録）

上記の如く聖徳太子当時は仏教熱のようやく起りし時代にて、寺観はさほど整ってはいなかったであろうが、平安朝貞観年中建立大師想応和尚、（比叡山東塔無動寺を根本道場とする北嶺回峰行の創始者なり、北嶺回峰行門は今日尚存続継承されている）が開基され爾来天台宗に所属し、比叡山元亀の兵難までは寺運非常に栄えたものなり。

宮　ケ　浜　　長命寺から湖岸道路を北へ6.5キロ行くと近江八幡国民休暇村があります。沖島が眼前に見られ、広い砂浜は絶好の水泳場です。

昭和59年度　山岳部総会報告

昭和59年京交山岳部総会を3月14日（木）18時30分より下鴨寮で32名の部員の参加で開催しました。市会開催中のためおくれて参加される方もおられましたが、岡田部長の挨拶のあと広瀬（光）氏の司会で議事に入りました。

（1）　昭和59年度　京交山岳部事業報告　　（岡田部長）

昭和59年度は山岳部創立35周年記念事業を中心とした活動の年であった。まず4月には故郷の山、残雪の大江山集中登山を実施。7月に記念事業のメインである〝北の山利尻山より大雪山縦走〟。そして10月には御岳の集中登山を計画していたところ、直前の地震の

ためやむなく大山に変更するなどのハプニングはあったものの、どの記念山行にも２０名以上の参加者があり盛況であった。

インドアにおいても、創立月にちなんだ７月に記念集会を盛大に開き、記念品としてオリジナルのバッグを部員全員に配布した。そして秋の局文化祭には山岳部３５周年記念コーナーを設け、山屋ここにありと大々的にＰＲし好評を得ることができた。

又、６３国体に備えて山岳競技コースの調査を山岳連盟の一員として担当、北山に新しいルートを拓くなどの副産物もあり、いささかでも貢献できたのはうれしいことである。

本年度の山岳活動をまとめると、５９年１月から６０年１月までの例会回数は５３回でありうち中止は６回もあったが、延参加人員は４５５名を数え、１例会当たりの平均参加人員は１０人である。昨年度と比較すると例会回数は減ったが、逆に参加延人員は増加している。これは創立記念登山、退職記念登山等のイベントが多かったためで、逆に一般例会は低調であったともいえ、ハイキング的な例会は多数の参加者があるが、京交伝統の渋い山行等には参加者が少なく、中止になった例会もこういう山行が多い。

５９年度の主テーマは〝若い人の育成〟ということで、ここ数年来同趣旨のテーマを掲げてきた。本年もそれなりの成果はあり、若い人達を中心としてロッククライミングを楽しもうという空気も拡がり、北鎌尾根に夏山合宿がもてたことは大きな収穫であった。しかしながら冬山においては例年のことながら、山行回数、参加者数がダウンするのは残念なことである。本年の冬山合宿は平均年令４７歳の老パーティとなり、部の限界を感じるところであった。退職者のご厚意により部の冬山装備も充実できている。冬山の楽しさをもっと多くの人達に味わっていただきたいと切望する。又、奥美濃等の路の無い、地図と山勘のみが頼りの登山の面白さを知っていただきたい。夏の快適な沢登りも知ってほしい。我々は決して前衛的な登山を望むものでなく、自然に親しみ山を楽しむためにオールラウンドの山行を奨めるのである。これが安全登山につながるものと確信する。

若い人の入部も少なく、おいおいに中高年令化していく我山岳部において、今年の数少ない新規採用者から新入部２名が得られたのは朗報であり、今後の活躍を大いに期待するものである。そしていまや少数派である若い部員と、中高年部員との落差をいかにして埋め、調和のあるより充実した山岳部にするかが今後とも継続される問題である。

（２）　昭和５９年度　会計報告　　（川原氏）

本年度より４０周年に向けて積立てた事、また大槻副部長より本年度退職された横井・渡辺朋・村・辻さんからそのつどご寄付をいただき備品を購入した事を報告、あわせて全会一致で了承されました。　（詳細別紙参照）

（３）　昭和５９年度　山岳部活動表彰　　（大槻副部長）

各部門１位の人たちに発言してもらいました。

投稿１位　大槻貞氏（９回）

４年ほど前から山登りをしているが、今一番うれしい時で来年になったらたぶんアカン

と思います。

（同じく投稿１位の伊藤さんは欠席でした）

例会参加１位　　津田氏　（１４回）

悪い気はしませんが、１４回しか山に行かんといて表彰してもろて恐れ入ってます。

来年は５０回位参加させてもらいます。５０回参加だめならペナルティーに…。

集会参加１位　　方山さん（１０回）

集会に参加すると、例会に参加できなくても楽しいし、予定も早く分かるので月に１回の事なので皆さんもぜひ参加して下さい。

例会担当１位　　川原氏　（３回）

自分の行きたい山行を担当しました。岩登りはこわいみたいですけれど楽しい、絶対に落ちない、年令に関係なしの岩登りを皆さんもやってもらいたい。

（４）昭和６０年度　会計予算　　（川原氏）

担当より提案があり全会一致で了承されました。　　（詳細別紙参照）

（５）昭和６０年度　年間計画　　（鷲見リーダー）

「自然にふれて楽しい体験」という主テーマの年間計画が提案され、無雪期　東山・西山縦走（日帰り）が追加され了承されました。

また、昨年ＯＢの近藤さんが、京都府体育協会より体育振興功労者表彰を受けられましたので記念行事として近藤氏のコース設定により、秋にオリエンテーリングを予定していることも発表されました。　　（詳細別紙参照）

（６）一部役員改正について　　（岡田部長）

京都府山岳連盟の役員選出について提案され了承された。

常任理事　鷲見敏一　　理　事　大倉寛治郎　　評議員　井上一夫

以上議案の討議のあと、田中副部長より挨拶があり総会を終了した。　（記録　大木）

出席者　（ＯＢ）　近藤、山村、坂井、奥村、津田、田中、河村、村、辻

（本局）　鷲見、広瀬（光）、大槻（雅）、方山、川原、井戸、渡辺（智）、山元、原田
山口、楠、石田、大木

（西賀茂）　（欠席）　　（九条）　田中（忠）、大槻（貞）、古市

（梅津）　吉田　　（烏丸）　大倉

（五条）　松井　　（洛西）　広瀬（烈）

（高野）　森本　　（高速）　岡田

（醍醐）　（欠席）　　（市役所）　（欠席）

（横大路）　岡本（義）

（錦林）　（欠席）　　以上　３２名

昭和５９年度京交山岳部会計決算　（単位 円）

	収入 内容	収入 金額	支出 内容	支出 金額
一般会計	1 部費	457,500	1 備品消耗品費	59,200
	OB 109,000		2 助成金	68,340
	本局 132,000		3 集会費	13,262
	西賀茂 6,000		4 総会費	14,656
	五条 12,000		5 部報代	276,300
	梅津 21,000		6 通信費	38,270
	高野 6,000		7 遭対資金積立金	42,000
	醍醐 9,000		8 岳連会費	9,500
	横大路 21,000		9 雑費・その他	37,460
	錦林 12,000		10 35周年記念支出金	75,000
	九条 35,500		11 次年度繰越金	4,276
	烏丸 28,000			
	洛西 3,000			
	高速 51,000			
	市役所 12,000			
	2 厚生会助成金	70,000		
	3 雑収入	123,157		
	広告料 50,000			
	その他 73,157			
	4 前年度繰越金	△ 12,393		
	合計	638,264	合計	638,264
記念事業特別会計	1 前年度繰越金	150,000	1 35周年記念品代	225,000
	2 一般会計補てん分	75,000		
	3 40周年積立金	80,000	2 40周年会計繰出金	80,000
	合計	305,000	合計	305,000
遭難対策資金積立金会計	1 前年度繰越金	1,046,864	1 次年度繰越金	1,147,484
	定期 803,024			
	普通 243,840			
	2 利息（定期のみ）	58,620		
	3 積立金（一般会計繰入）	42,000		
	合計	1,147,484	合計	1,147,484

昭和６０年度京交山岳部会計予算　（単位円）

	収入 内容	収入 金額	支出 内容	支出 金額
一般会計	1 部費 3000×140	420,000	1 備品消耗品費	55,000
			2 助成金	40,000
			3 集会費	20,000
	2 厚生会助成金	70,000	4 総会費	20,000
	3 雑収入 広告料　50,000 その他	50,000	5 部報代	300,000
			6 通信費	40,000
			7 遭対資金積立金	42,000
	4 前年度繰越金	4,276	8 岳連会費	9,500
			9 事務費	5,000
			10 雑費	12,776
	合計	544,276	合計	544,276
記念事業特別会計	1 35周年会計繰出金	80,000	1 次年度繰越金	
	合計	80,000	合計	80,000
遭難対策資金積立金会計	1 前年度繰越金	1,147,484	1 次年度繰越金	1,252,384
	2 利息（定期のみ）	62,900		
	3 積立金（一般会計繰入）	42,000		
	合計	1,252,384	合計	1,252,384

昭和60年度山岳部年間計画

1985年度年間計画主テーマ（自然にふれてたのしい体験）	月	行事 インドア	行事 アウトドア	主な山行
	4	山菜について（鷲見）		奥美濃 ↑ ↓
	5	ザイルの結び方（1）（吉田）	山菜を求めて（京大演習林）	谷シリーズ ↑ ↓
	6	ザイルの結び方（2）（大倉）	ザイル祭（トカゲを決める会）	
	7	テントの過し方（大槻）		府県境の山シリーズ ↑ ↓ ・八ガ岳
	8	山の花について（三橋）		
	9	オリエンテーリングについて（近藤）		中国地方の山 ↑ ↓
	10	装備について（1）（鷲見）	オリエンテーリング	
	11	装備について（2）（岡本）	星をみる会	・八ガ岳
	12	納山会（広瀬）		
	1	新年会（田中）	初登山	山スキーシリーズ ↑ ↓ ・八ガ岳
	2	読図（岡田）		
	3	総会		

山　行　内　容

- 無雪期
  - 登　山
    - 合　宿　南アルプス、鳳凰三山、御岳
    - 縦　走及び泊　穂高、果無山脈、弥山、小川温泉～蓮華温泉、六甲、大峰、茶臼山～光岳、涸沢、黒部下ノ廊下～針ノ木、奥美濃、九重と阿蘇
    - 日帰り　芦生、北山、江笠山、物見石山、京大演習林、由良ガ岳、雨石山、三室山、沖の山、霊山、湖南の山、比良、鉄鉢山、多紀アルプス、取立山、伊吹、櫃ケ岳、剣尾山、烏帽子、東山・西山縦走
  - 岩登り ―― 雪彦山、芦屋ロックガーデン、金比羅、剣山、藤内壁
  - 沢登り ―― 由良川源流、大峰～台高、比良、笛吹川、赤崎（東西）谷
- 積雪期及び残雪期
  - 登　山
    - 合　宿　南アルプス（鳳凰三山）、中央アルプス
    - 縦　走及び泊　比良、伊吹、高倉峠～釈迦嶺
    - 日帰り　武奈、北山、霊山、貝月山、明神岳、黒柄岳、釈迦岳、桟敷岳、太神山ヨロイダム、法沢山、小和田山、鴻応山、ポンポン山
  - スキー登山（山スキー） ―― 伊吹、加越国境、野麦～乗鞍、大日岳～ひるがの、氷ノ山、白山蓮華～雪倉、立山、奥美濃、大見尾根、国境～マキノ
  - スキー ―― 初滑り、立山

注）

・印については、リーダー会で合宿（案）としてまとめたものです。
八ガ岳合宿の担当は四季を通して岡本義弘、大倉寛治郎　両氏が担当、
アウトドアについては山行と切りはなして別途に計画する。

例会報告

例会No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
1524	比良	2月17日	曇	大倉寛治郎	鷲見 敏一 井戸 澄夫	岳連主催のトレーニングに参加した。
1525	冬山合宿 御嶽山	2月23日 ～24日	曇	吉田 武 大倉寛治郎	岡田、武田 古市、(方山)	参加者が少なかったので、全員山スキーで行動した。 別稿報告
1526	伊吹山	3月 2日 ～3日	雨後晴	大倉寛治郎	鷲見、岡田	岳連指導員検定試験に、大倉鷲見が合格。
1527	中国地方の山々	3月 9日 ～10日	雨後晴	上島 和彦	伊藤 潤治	中国地方の三角点を5つ登ってきた。 次号報告

雑報

部費受領

（昭和60年度分）

OB　山下周道、近藤 薫、田中定勝、山村敏郎、坂井久光、奥村弘信、河村 清、津田 実、村 宗松、辻 久雄

西賀茂　飯原京二　　烏丸　坂田利春、台川敦美、大倉寛治郎

お知らせ

3月2日～3日に伊吹山にて山岳指導員検定試験が実施され、当山岳部から昨年の吉田リーダーに引続き鷲見リーダーと大倉リーダーが見事、合格されました。

なお、岡田部長が検定員として参加されました。　以上で京交山岳部の指導員は下記のとおりとなりました。

名誉指導員　近藤 薫

2種指導員　岡田茂久、鷲見敏一

地区指導員　坂井久光、吉田 武、大倉寛治郎

63国体にそなえての活躍が期待されます。ぜひ若い部員の指導員受験を期待します。

帆布・濾布
テント・シート
雨合羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
TEL 801—5331（代）

西大路営業所
下京区西大路七条下ル
TEL 321 — 0251

愛されるスポーツ店

京菱運動具店

本　店　下京区大宮通松原上ル
TEL（801）1331
十条店　南区竹田街道十条上ル東側
TEL（691）8041
伏見店　伏見区伯耆町西友ストアー4F
TEL（623）0824
山科店　山科区音羽野田町1番
西友ストアー山科店
TEL（592）9770内線228

一年中、山用品だけの
プロショップ

営業時間
午前10時～午後1時と午後3時～午後8時
（午後1時～3時は閉店させて頂きます）
<定休日>　火・水曜日

山・アウトドア　プロショップ

ログケビン 長谷川　博
京都市中京区御幸町通
蛸薬師南入
（四条河原町・阪急河
原町より徒歩約4分）
TEL 221—7569

昭和60年 4 月 1 日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

京交山岳部

お知らせ

今度、当チロル店舗は近代ビル改築計画に伴い、一時立退きと相成りました。
改築期間中（約1年間）は、本店2階にチロルコーナーとして継続営業いたします。

チロル

移転先　本店2階
京都市中京区西ノ京円町24

ダイヤ運動用品株式会社

HORIGE KYOTO

まかせて下さい…ネ
山とスキー
のことなら…

☆在庫豊富にとり揃えています
☆山の道具は　ゼヒ　御相談下さい

山とスキー専門店
ビッグ ホリイケ

河原町店　上・河原町通丸太町東入
TEL　222－0363

御婚礼
御引越
ぎおん菊水
専門

ぎおん菊水運送株式会社

山科配車センター
京都市山科区西野山階町12－12
TEL(075)581－3101

本　社
東山区大和大路通四条下ル　541－2345

鴨川営業所
中京区室町二条上ル　256－3059

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター
厚生会指定
サンコークラフト
西島輝雄

左・川端通丸太町下る下堤町88
TEL(075)771－3442

山とスキーの店
京都 あるぷ

京都市中京区新町三条上ル
075－255－0288

HIKE & CAMP

この用具の事ならコニシが一番だ！
御来店ありがとうございます

山とスキー　レジャー　スポーツ　ショップ
そして海の
コニシ

中・二条通河原町西　TEL　231－1202